体　育　科

1　体育科でねらうもの

学習指導要領の目標

　心と体を一体としてとらえ，適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基盤を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り，楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

　小学校体育科は，「運動に親しむ資質や能力の育成」，「健康の保持増進」及び「体力の向上」の３つの具体的な目標を通して，「楽しく明るい生活を営む態度を育てる」ことを究極的なねらいとしている。

■運動に親しむ資質や能力の育成
・運動への関心や自ら運動をする意欲，仲間と仲良く運動をすること，各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力，運動の技能を育てる。

■健康の保持増進
・身近な生活における健康・安全に関する内容を実践的に理解することを通して，自らの生活行動や生活環境における学習課題を把握し，改善することができる資質や能力の基礎を培う。

■体力の向上
・各種の運動を適切に行うことによって活力ある生活を支え，たくましく生きるための体力の向上を図る。

◇楽しく明るい生活を営む態度を育てる
・生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践するための資質や能力，健康で安全な生活を営む実践力及びたくましい心身を育てることによって，現在及び将来とも楽しく明るい生活を営むための基礎づくりを目指す。

2　学習指導要領の特色

(1) 基本方針

①　生涯にわたって健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを実現することを重視し，改善を図る。また，学習したことを実生活，実社会において生かすことを重視し，学校段階の接続及び発達の段階に応じて指導内容を整理し，明確に示すことで体系化を図る。

②　体育については，それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて，基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるようにする。

③　保健については，生活習慣の乱れやストレスなどが健康に影響することを学ぶことが重要であり，健康の概念や課題などの内容を明確に示すとともに，指導内容の改善を図る。

(2) 具体的事項

①　内容（領域）構成及び取り扱い

ア　運動領域は，低学年・中学年においても，高学年と同様に６領域で構成する。

イ　子どもの体力低下，運動習慣の二極化傾向の指摘を踏まえ，低学年・中学年においても領域の１つとして「体つくり運動」を規定する。

ウ　「ゲーム（中学年）及び「ボール運動」については，「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」として類型ごとに規定する。

エ　指導内容の系統性を図り，発達段階のまとまりを考慮する。

○小１～４年：「様々な動きを身に付ける時期」
○小５～中２：「多くの運動を体験する時期」
○中３～　　：「少なくとも１つのスポーツに親しむ時期」

オ　運動の取り上げ方の弾力化を図り，「体つくり運動」以外の指導内容について，２学年のいずれかの学年で取り上げて指導できるものとする。

<table>
<tr><td>学年</td><td>第１学年</td><td>第２学年</td><td>第３学年</td><td>第４学年</td><td>第５学年</td><td>第６学年</td></tr>
<tr><td>授業時間</td><td>１０２</td><td>１０５</td><td>１０５</td><td>１０５</td><td>９０</td><td>９０</td></tr>
<tr><td rowspan="7">内容
（領域）</td><td colspan="6">体つくり運動</td></tr>
<tr><td colspan="2">器械・器具を使っての運動遊び</td><td colspan="4">器械運動</td></tr>
<tr><td colspan="2">走・跳の運動遊び</td><td colspan="2">走・跳の運動</td><td colspan="2">陸上運動</td></tr>
<tr><td colspan="2">水遊び</td><td colspan="2">浮く・泳ぐ運動</td><td colspan="2">水泳</td></tr>
<tr><td colspan="4">ゲーム</td><td colspan="2">ボール運動</td></tr>
<tr><td colspan="2">表現リズム遊び</td><td colspan="4">表現運動</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="4">保健</td></tr>
</table>

３　道徳との関連

集団でのゲームなど運動することを通して，粘り強くやり遂げる，きまりを守る，集団に参加し協力する，といった態度が養われる。また，健康・安全についての理解は，生活習慣の大切さを知り，自分の生活を見直すことにつながるものである。

４　体育科における言語活動

集団的活動や身体表現などを通じて，コミュニケーション能力を育成することや，筋道を立てて練習や作戦を考え，改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力を育むことは大切である。

しかし，体育の授業において，言語活動を活発に行うことが目標とはなり得ない。言語活動は，体育としての学習目標を達成するための手段であり，学習目標の習得に向けて有効に機能しなければならない。言語活動の量を求めて運動量が減ってしまうようなことにならないよう，その質的向上を目指していきたい。